

「ちばエコ農産物」栽培のために！

(品目別栽培カード②)



さやいんげん・ハウス半促成栽培

千葉県農林水産部

1 認証基準

さやいんげん・ハウス半促成栽培の認証基準は、化学合成農薬の使用成分回数が10回以下、化学肥料使用量（窒素成分量）が12kg/10a以下です。

また、堆肥の施用は、2,000kg/10aが目安量とされています。

(表1)



▲ ちばエコさやいんげんの開花状況

表1 ちばエコ農産物認証基準における農薬の上限回数と窒素成分の上限量
(さやいんげん・ハウス半促成栽培)

(平成17年3月現在)

作 型	上 限 量		堆肥施用の目安量 (kg/10a)
	化学合成農薬 (使用成分×回数)	化学肥料使用量 (窒素成分kg/10a)	
ハウス半促成栽培	10	12	2,000

2

認証基準達成のポイントと考え方

1 病虫害防除

ちばエコ農産物の認証基準に適合した薬剤防除例を表2に示します。この例では、化学合成農薬の使用回数は5回ですが、病虫害の発生状況に応じて、更に2～3回の化学農薬の使用が必要と考えられます。認証基準となる化学合成農薬使用回数以内で防除を行うためには、問題となる灰色かび病、菌核病、白絹病、ハモグリバエ、アブラムシ、ハダニ、センチュウ類などの病虫害の特徴の理解とそれぞれの発消長の観察による適期防除が重要です。加えて、病虫害の発生しにくい環境を作るなど、耕種的防除を行う必要があります。

表2 さやいんげん・ハウス半促成栽培のちばエコ農産物認証基準に適合した農薬防除例

月	旬	主要作業	農薬名	希釈倍数	対象病虫害	備考
3月	上旬					
	中旬	定植	アドマイヤー1粒剤	1g/株	アブラムシ類	
	下旬					
4月	上旬					
	中旬		アフーム乳剤	2,000倍	マメハモグリバエ	
	下旬		セイビアーフロアブル20 ※ボトキラー水和剤	1,000倍 1,000倍	灰色かび病、菌核病 灰色かび病	
5月	上旬	収穫	※ボトキラー水和剤	1,000倍	灰色かび病	
			アグロスリン乳剤	2,000倍	アブラムシ類	
			セイビアーフロアブル	1,000倍	灰色かび病、菌核病	
			※ボトキラー水和剤	1,000倍	灰色かび病	
	中旬	収穫	※ボトキラー水和剤	1,000倍	灰色かび病	
	下旬		※ボトキラー水和剤	1,000倍	灰色かび病	
6月	上旬					
	中旬	収穫				
	下旬	収穫				
カウント農薬数			5			

※印は、「化学合成農薬に含めない農薬」

A. ほ場の準備 ～土壌病害の完全防除～

●連作ほ場では土壌還元消毒を実施します。

土壌還元消毒はフザリウムなどの土壌病害、センチュウ類に効果があり、また、菌核病、白絹病の発生の抑制効果もあります。

方法：フスマ1,000kg/10aをハウス内に均一に散布してロータリーをかけます。その後、かん水チューブを設置し、その上に古ビニールを被覆して、水を入れ、湛水状態にします。なお、最初に水を入れた後、古ビニールで被覆してもよいでしょう。ハウスのサイドを下げ、温室内の気温を上げます。その際、地温が30℃以上に保てれば、ハウス内の灌水パイプの変形防止のためにも、サイドは多少開けておいた方がよいでしょう。なお、この土壌還元消毒は、6～8月の気温が上昇する時期に行います。

B. 育苗期 ～害虫の完全防除～

●育苗中は、開口部からの害虫の侵入を防ぎます。

寒冷紗等の防虫ネットで開口部を覆い、アブラムシなどの害虫の侵入を防ぎます。ハウス周辺のアブラムシ、ハダニの寄生しやすい雑草などは除去します。

C. 定植後の管理 ～早期発見・早期防除～

●摘葉作業によって病害虫の密度を低くします。

ハモグリバエが初生葉に発生したら、上位葉に移行する前に初生葉を除去します。また、通常の摘葉作業では、葉裏に発生するアブラムシ、ハダニに注意し、見つけ次第、葉ごと除去します。摘葉により風通しが良くなり、病害の発生しにくい環境を作ることができます。

●殺虫剤は、観察に基づき、発生に応じた散布を心がけます。

害虫は、初期発生を観察してから農薬散布すれば、無駄な使用を防ぐことができます。ただし、葉裏までしっかりと薬剤がいき渡るように、丁寧な散布が必要です。

●殺菌剤は予防的な散布を心がけます。

病害は、低密度でも発生していると、天候次第では致命的な被害をもたらすこともあるため、殺菌剤を予防的に散布します。

●「化学合成農薬に含めない農薬」を活用します。

微生物農薬のボトキラー水和剤は灰色かび病への予防的効果があり、ちばエコ農業における「化学合成農薬に含めない農薬」です。使用回数は無制限、使用方法は散布法とダクト内投入法の2つの方法があります。ダクト内投入法とはハウス内の暖房機のダクトに小さな穴をあけ、そこから薬剤を粉のまま毎日散布（飛散）させる方法です。1日、10a当たり、10～15gの薬剤を投入することができます。



▲ ちばエコさやいんげんの着莢状況

D. 収穫期 ～収穫物への影響を考慮した防除～

● 収量に影響を及ぼすかどうかを考慮して防除を行います。

出荷が近づいてくるため、初期発生の病害虫は、莢への被害を予想しながら、農薬を使用するかしないかを判断します。

● 農薬の使用に当っては、各剤の収穫前使用可能日数を考慮します。

例えば、アグロスリン乳剤やトレボン乳剤は、収穫7日前まで使用できます。

2 堆肥

ちばエコ農産物の認証基準に適合した堆肥及び肥料の施用例を表3に示します。本施用例は主要農作物等施肥基準（平成16年、千葉県）に準じて作成しましたが、ほ場ごとに土壌診断に基づいて施肥量を定めることが望まれます。

表3 さやいんげん・ハウス半促成栽培のちばエコ農産物認証基準に適合した堆肥及び肥料の施用例

区分	製品名	保証成分量 (%)			現物施用量 (kg/10a)	成分施用量 (kg/10a)		
		窒素	リン酸	加里		窒素	リン酸	加里
堆肥	牛糞堆肥				1,000			
	発酵鶏糞	2.2	4.5	2.9	377			
基肥	AM化成	15(15)	15	15	35	5.2(5.2)	5.2	5.2
	BMようりん	0	20	0	40	0	8.0	0
	苦土石灰				80			
	基肥計					5.2(5.2)	13.2	5.2
追肥	燐硝安加里S604	16(16)	10	14	20	3.2(3.2)	2.0	2.8
	総施用量					8.4(8.4)	15.2	8.0

注) ()内は、総窒素のうち、化成肥料由来の窒素成分。

☆この「品目別栽培カード」に記載した農薬使用は、平成16年度現地実証試験時点のもので、実際の農薬使用に際しては、ラベルの表示をよく確認するとともに、最新の農薬使用基準を守って使用してください。

- 著 作 千葉県農林水産部農業改良課
千葉県農業総合研究センター
- 編集・発行 千葉県農林水産部生産振興課
- 発行年月 平成17年12月

■ 内容についての問い合わせ先

千葉県農業総合研究センター TEL.0470 (22) 2962
または各地域の農林振興センター